

乱世を駆け抜けた砲術の一族 旗本坪内氏と各務原

歴史民俗資料館では、9月5日～、企画展「旗本坪内氏～乱世を駆け抜けた鉄砲隊～」を開催します。坪内氏は、戦国時代に鉄砲隊を率い、江戸時代には各務原市の稲羽・川島地域を治め、幕末にも得意の大砲で活躍し、現在の各務原に大きな影響をもたらした一族です。坪内氏の活躍を通して、各務原の歴史を学びましょう。

詳細 歴史民俗資料館 ☎ 058-383-1361

信長・秀吉・家康に仕えた坪内利定

坪内氏の系譜を記した由緒書（画像左）には、「もともと加賀国（現在の石川県南部）にいた富樫氏が、戦国時代に松倉（現在の各務原市川島松倉町、画像右）に移り住んで、姓を坪内に改めたことが坪内氏の始まりである」と記されています。

坪内氏の初代は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に仕えた戦国武将・坪内利定（1539年～1610年）です。松倉城主であった利定は、信長が尾張から美濃に攻め込むにあたって案内役を務めました。また、秀吉から領地を与えられたことを示す古文書が残っており、早くから秀吉

に仕えていたことが読み取れます。利定は、信長や秀吉に仕えながら、各地の合戦で鉄砲隊を率いて活躍しました。

その後、利定は家康の家臣となり、関ヶ原の戦いの際には、4人の息子とともに鉄砲隊50人を率いて活躍しました。それにより、坪内氏は現在の稲羽・川島地域に領地を与えられました。利定の4人の息子は、それぞれ新加納、前渡、三井、平島（岐南町）に屋敷を構え、前渡、三井、平島の三家が将軍への謁見が許されない中、新加納の自家だけが、謁見が許される旗本となりました。



本国加州富樫庶流坪内家一統系図並由緒（少林寺蔵）



小網村絵図（県歴史資料館蔵）左上の四角囲みに「松倉御屋敷」とある

砲術で活躍した坪内昌壽

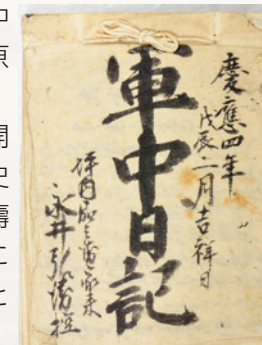
ペリーの黒船など、異国船がやってくるようになった江戸時代の終わりごろ、前渡坪内氏の昌壽は、戦国時代以来の特技である砲術を生かして出世を目指し、各務原台地で大砲の訓練を開始しました。



坪内嘉兵衛昌壽の家族写真

江戸幕府を倒そうとする明治新政府軍と旧幕府軍の戦い（戊辰戦争）が、1868年に始まると、昌壽は、新政府軍に味方することを表明。大砲をひいて新政府軍の一員として江戸へ向かいしました。このときの行軍の様子を記した貴重な記録である「戊辰戦争軍中日記」は、現在も各務原市に残っています。

その後、江戸城無血開城や上野戦争などの歴史的事件に立ち合った昌壽は、明治政府から朝臣に任じられ、京都で役人として務めました。



戊辰戦争軍中日記

坪内氏と各務原

坪内氏が砲術の練習をしていた当時の各務原台地は、農業に向かない土地で、広大な草原が広がっていました。この台地は、その後明治時



1919年ごろの各務ヶ原飛行場

代に陸軍の大砲演習場に、大正時代に各務ヶ原飛行場になります。飛行場を中心に、近代の各務原は工業のまちとして発展し、現在の「ものづくりのまち」につながっていきます。坪内氏が鉄砲・大砲を得意とする一族であった、という歴史が、今私たちが暮らす各務原市の景色に、深く関わっています。

坪内氏の活躍について、詳しくは、市ウェブサイトに掲載している「かかみがはら百科 + NO.11」で紹介しています。



歴史民俗資料館企画展 旗本坪内氏～乱世を駆け抜けた鉄砲隊～

坪内氏ゆかりの鉄砲や日記など、今回ご紹介した、戦国時代から明治時代にかけての貴重な資料などを展示します。また、期間中に学芸員による展示解説などを行う「ミュージアムトーク」を開催します。ぜひ、お越しください。

期間 9月5日～10月4日 10:00～17:00

場所 中央図書館3階展示室A（那加門前町3）

備考 ▷「ミュージアムトーク」は9月20日（日）13:30～▷休館日は、9月7日・14日・15日・24日・28日・29日、10月2日

